

1. 日本科学哲学会・石本基金の事業開始のお知らせ
2. 「石本賞」について
3. 「若手会員研究助成」について
4. 2007年度若手研究助成公募開始について
5. 「会員出版助成」について
6. 第一回（2006年度）「石本賞」選考結果

## 1. 日本科学哲学会・石本基金の事業開始のお知らせ

2006年11月6日

石本基金運営委員長

野本 和幸

会員各位

平素は、本学会の活動にご協力を戴き、誠に有難うございます。

さて、故石本新・前会員のご遺族から昨年来本学会に多額のご寄付を頂戴したこと、またその趣旨が、故人のご研究に照らして、論理学、論理学の哲学、言語科学、言語哲学、数学の哲学を始め、科学哲学全般を含む領域での、堅実な基礎研究の発展に資するべく、本学会の活動をますます充実・発展させる点にあることは、前回大会総会その他の場を通じて夙にお知らせしてきた通りです。

これを受けて本学会では、この間、理事会での承認を得ながら、会長を中心として「石本基金運営委員会」を組織し、基金の事業内容や実施の仕方等について鋭意検討を重ねて参りましたが、この結果、

- (1) 「石本賞」(『科学哲学』に掲載された若手研究者の優秀論文に対する奨励賞)、
- (2) 「若手会員研究助成」
- (3) 「会員出版助成」

という三部門を設けることがひとまず決定され、更に、(1)については既にその活動が始まり、また(2)(3)についても近々始動する運びとなりましたので、ここにご報告いたします。とりわけ後二者については、会員各位から広くご応募を戴くことがその活動の不可欠の前提となりますので、どうかこれらの事業の趣旨・内容についてよくご理解戴き、奮ってご参加・ご協力下さるようお願いいたします。

運営委員会の選出手順その他の詳しい規定は後日「石本基金運用規定」として公表いたしますが、以下の点はすでに理事会での承認を得ています。

- 1) 委員長・委員は任期2年、ただし再任可とする。
- 2) 委員長は理事会にて選出し、運営委員は委員長が任命する。
- 3) 各部門については運営委員の中からそれぞれ作業部会長を選出し、そのもとで作業部会を設置する。

なお、第1期(2006-7年度)石本基金運営委員会の構成は、次の通りです。

**委員長：** 野本和幸

**委員：** 飯田隆 石垣壽郎 伊藤邦武 内井惣七 岡本賢吾 小林道夫 佐藤徹郎  
丹治信春 戸田山和久 西脇与作 野家啓一 信原幸弘 野矢茂樹 美濃正  
山田友幸 横山輝雄

## 2. 「石本賞」について

『科学哲学』掲載論文（公募論文、依頼論文を問わない）のうち、若手研究者の執筆になるもので、とりわけ内容的に優秀で、学界の今後の発展に重要な貢献を果たすことが期待され、本学会として、著者の研究活動に対する支援・奨励を行うことが有意義だと認められるものを、毎年度一篇選び、大会総会の場でこれを表彰するとともに、副賞（十万円）を贈呈する。

### \* 選考対象

- 1) 掲載時期：授与年度より前の「3年度間」に発行された『科学哲学』のいずれかの号に掲載されたもの。
- 2) 著者の年齢：当該論文の寄稿時点（公募論文の場合はその掲載決定時）で、著者が「40歳未満」であること。
- 3) 会員資格：授与年度の前年度末までに、著者（複数の場合、少なくともその中の一人）が本学会の会員となっていること。

### \* 選考方式

運営委員会から「石本賞」選考作業部会長を選任し（任期2年）、各年度、『科学哲学』編集委員へのアンケート等を通じて候補作を絞った上で、部会長が作業部会委員を数名選び、厳正な審査・討議を行った上で運営委員会の了承を経て受賞作を決定する。

## 3. 「若手会員研究助成」について

本学会の若手会員の研究、特にそれがいまだ萌芽的段階に留まっても重要な成果を上げることが期待されるような研究について、その支援を目的として助成金を支給する。このため選考にあたっては、研究業績より研究計画を重視する。

### \* 助成内容

- 1) 毎年2~3名程度。
- 2) 助成期間：2年間
- 3) 助成金額：35万~50万円（これらを2年間分とし1年目に一括支給する。2名の場合は1人あたり50万円、3名の場合は1人あたり35万円とする）
- 4) 成果発表：期間終了時に研究成果の報告となるような論文を執筆。これは審査の上、翌年度の『科学哲学』に掲載することを目的としており、それに相応する水準が求められる。

### \* 応募資格

- 1) 応募時点で常勤職についていない本学会の会員で、博士後期課程（あるいはそれに相当する課程）に在籍したことがある者（応募と入会申込が同時でも可とする）。
  - 2) 応募時点で博士後期課程（あるいはそれに相当する課程）入学から10年以内であること。
- ※ 採用後でも助成開始段階から常勤職ないし、学術振興会研究員に採用が決まった方には辞退していただきます（その場合は次点者を採用）。

#### \* 応募方法及び選考基準

- 1) 本学会ホームページ上に用意されている応募用紙に所定の事項を書き込み、毎年12月中旬を締め切りとして本学会事務局に提出する。
- 2) 上記の通り研究実績よりも研究計画の将来性を重視し「若手研究助成」作業部会で選考を行い、3月上旬に結果を通知する。

## 4. 2007年度若手研究助成公募開始について

来年度の若手研究助成公募を開始します。

**応募期間：** 2006年12月11日～2006年12月25日

**応募方法：** ホームページ上の応募用紙（11月10日までに掲載予定）に所定の事項を記入し、電子メールの場合は添付ファイルにて、郵送の場合は事務局宛にお送り下さい。なお電子メールのタイトルは「若手研究助成応募」とし、郵送に際しては封筒の表に朱書で「若手研究助成応募」と記入して下さい。応募資格については上記をご確認下さい。

**結果通知：** 2007年2月末日までにメールまたは郵送にて本人に通知します。

## 5. 「会員出版助成」について

若手・中堅会員による、科学哲学に関する基礎研究のかつ、学術的価値が高い論文（論文博士に相当するもの）を公募しその出版を助成する。採用は毎年原則1件、助成金額は1回につき百万円から二百万円とし、選考は「会員出版助成」作業部会があたる。来年度から公募を開始する予定。詳細についてはさらに検討した上で会員に郵送文書およびホームページ上の記事で周知を行う。

また運営委員会で独自に科学哲学関連の論文集、講座等を企画・出版することも予定している。

## 6. 第一回（2006年度）「石本賞」選考結果

佐藤徹郎第一回「石本賞」選考作業部長の下で選考が行われ、以下が受賞作となった。なお第一回の表彰式は、第39回日本科学哲学会年次大会（北海道大学、2006年10月21日）総会において行われた。

青山拓央 「時制的变化は定義可能か——マクタガートの洞察と失敗」

（『科学哲学』第37巻2号掲載）

〒192-0397 首都大学東京大学院 人文科学研究科 哲学教室内  
日本科学哲学会事務局

fax. 042-677-2073（「日本科学哲学会」宛であることを明記して下さい。）

e-mail. philsci@comp.metro-u.ac.jp

URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/pssj/index.html>